

CSRからCSVへの転換

NPOを設立してから仕事の割合としては、倫理観を確立させていくアースワーカーエナジীর活動が51%を占め、残りの49%で株式会社コンフォートメディア、小原木材株式会社などデザインビジネスや会社経営を行うという比率で事業を動かしています。

小原木材を父から継いだ2002年当初、会社ではまだ外国産材の丸太を製材していました。そうした中、私が社長に就任した途端、100%地域産材に切り替えると話した時、「会社が成り立ちません」と全社員から猛反対されました。しかし、それから14年後の2016年には地域産材100%を達成することができました。

会社が成り立つ、成り立たないという判断ではなく、私は時代の流れに合わせて会社が成り立つようにしなければならぬと考えています。その一つの答えとして、木材の燃えやすさ腐りやすいというウィークポイントに対して、燃えにくく腐りにくい加工を施した「タフの木」を開発しました。地域産材に付加価値を加えたことで、新しい流通が生まれ、伊勢神宮や東京スカイツリーにも採用

されました。地球規模で考えれば、資源は無限ではないことは分かってきています。その中で、どのようにして成り立たせるのかを考えなければなりません。こうした発想は、倫理観を明確に持ったことで芽生えました。これからは、CSR（企業の社会的責任）だけではなく、事業そのものが社会の共通価値とリンクするCSV（共通価値の創造＝Creating Shared Value）という着想のもと、ビジネスを展開していかなければならないと思っています。

こうしたCSVの取り組みの一環として2014年からは、岡崎市額田地域の山頂付近の13・5ヘクタールの人工林のうち、4ヘクタールを自然林に戻す「天使の森」プロジェクトを進めています。このプロジェクトでは、矢作川・乙川の水源である山頂付近から三河湾に至るまでを奥山・里山・人里・里海・海洋と5つにゾーニングし、人と自然が共生する地域循環型社会の実現に向けて取り組んでいるところです。

自然林を育てていくことは、山の土壌を安定させ、街の中心エリアを流れる川の氾濫を抑制するとともに、山から流れ出るミネラルが里海を育んでくれます。森の再生が、巡

り巡って私たちが住む街の豊かさへとつながっていくというスキームで、事業を実働させているのです。こうした活動を伝えていくために、武蔵野美術大学で講義を開いたり、シナリオから書き上げたパペット劇を公演したり、情報発信にも力を入れています。

今こそ、何が大切なのかをしつかりと構築していかなければならないと思っています。理念や考え方がなければ、デザインは単なる一人遊びになっってしまう。現在、ビジネスの速度は加速度的に高まっています。とりわけIT業界は、ドッグイヤーと揶揄されるように短期的なスパンでビジネスが巡っています。しかし、林業の世界は、その真逆となるひ孫の世代のために、今、植樹を行っています。こうした長期的な視点で、持続可能なビジネスにこれからも取り組んでいきたいです。



- ❶ 100%地域産材の杉と檜を加工して作られた小原氏の自宅。
- ❷ 地域産材を活用しながら、全面ガラス張りの岡崎信用金庫城下町支店。
- ❸ 「天使の森」プロジェクトの植樹の様子。
- ❹ 人と地球の健康に配慮した石鹸。

